水稲営農情報

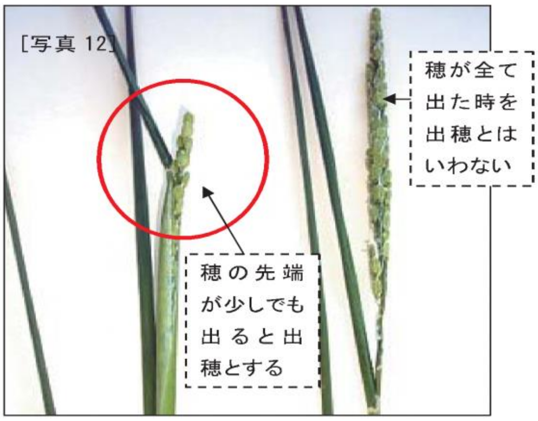
令和4年7月8日
JA 福井県丹生基幹支店 営農部
福井・丹南農林総合事務所

☆基幹防除について☆

本年はカメムシの発生が昨年より多いとの予測です。基幹防除を徹底して品質保持に努めましょう。

防除の目安として1回目が穂揃期、2回目が傾穂期(1回目から1週間～10日後)です。散布適期を逃さないよう注意しましょう。

2 回の防除後もカメムシが多発する場合は、3 回目の防除も検討しましょう。



防除時期及び使用薬剤

ハナエチゼンの防除時期
１回目　　７月１５日～２０日
２回目　　７月２２日～７月２７日

コシヒカリの防除時期（５月１０以降植え）
１回目　　７月２７日～８月５日
２回目　　８月３日～１３日

あくまでも管内の平均予想です。カメムシ防除は必ずご自身の圃場の状態を確認して行いましょう。

使用時期	農薬名	病害虫名	散布量	留意点
1 回目	ビームスタークル粉剤 5DL（2 成分）	カメムシ・ウンカ類 いもち病	3～4kg/10a	収穫 7 日前まで
	チームワーク粉剤 DL（3 成分）	カメムシ・ウンカ類 いもち病・紋枯病	3～4kg/10a	収穫 14 日前まで
2 回目	ダントツ H 粉剤 DL（1 成分）	カメムシ（残効性を重視）	3～4kg/10a	収穫 7 日前まで
	スタークル粉剤 DL（1 成分）		3kg/10a	収穫 7 日前まで

☆紋枯病対策☆

発生しやすい品種
ハナエチゼン・あきさかり

紋枯病は稲の株元から徐々に上部に伸展し、ひどい場合は稲が白穂になり収量が著しく減収します。又、稲株が弱くなり倒伏しやすくなります。発生を確認したら直ちに防除しましょう。

また、前年に紋枯病が発生した圃場は菌核が残っていますので、必ず防除を行ってください。

対称病害	散布時期	薬剤名	散布量	注意点
紋枯病	出穂期	リンバー粒剤（1 成分）	3 ～ 4kg ／10a	収穫 30 日前まで

☆いもち病対策☆

今年は６月まで晴天が続き、葉いもち病が発生しにくい条件となっています。

ただし、生育過剰な圃場、田植が遅い圃場、中山間地などは、いもち病にかかりやすいため、箱処理剤等で防除している場合でも一度圃場を確認しましょう。

基幹防除でカメムシ・いもち病防除の予定がある場合でも、現時点で発生を確認した圃場は直ちに防除を行いましょう。

対象病害	散布時期	薬剤名	散布量	薬剤効果
いもち病	発生確認後直ちに（7 月上～中旬）	ブラシン粉剤 DL（2 成分）	3 ～ 4kg／10a	治療･予防

☆収穫までの管理について☆

出穂期は品質･収量を高める重要な時期です。また、稲の一生で最も外部からの影響を受けやすい時期でもあります。圃場を見回り、水管理と適期防除で本田管理の最終仕上げに努めましょう。

出穂、開花期のかん水は「花水」と言われるほど特に重要で、登熟に大きな影響力を持ちます。

出穂･開花期以降は玄米を形成する重要な時期です。間断通水で、土壌水分を切らさずに根の活力を高め、栄養分の転流が阻害されることのないように努めましょう。

フェーン現象や台風などの強風時は一時的にたん水状態にし、稲体の消耗を防止しましょう。

高温が予想される場合は、夕方から早朝にかけてのかん水を行いましょう。

近年、収穫作業を優先することから完全落水時期が早くなっています。落水時期が早すぎると登熟不足により品質（胴割米･乳白米）と食味が低下します。収穫の5日～7日前を目安に、収穫作業に支障のない限り落水時期を遅らせましょう。

足跡に水が残る程度に管理を